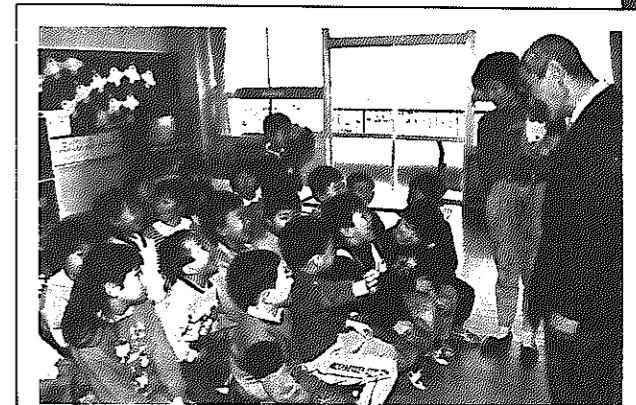


まちの話 題

話おじさん、ありがとう
諏訪木 保育園

「お話おじさん」として諏訪木保育園の子どもたちから親しまれている渡辺万爾さん(日の出町・六十四歳)。三年前に、白根大火の思い出を子どもたちに話したのがきっかけで、それ以来月に一度、絵本を読んだり紙鉄砲や竹トンボで遊んだり、楽しいひとときを過ごしています。三月二十日は「福の神と貧乏神」のお話。笑顔で語り掛ける渡辺さんに、子どもたちはすっかり夢中。その日、子どもたちから思いがけない絵のプレゼントをもらった渡辺さんは「楽しみにしているのは私のほうです」と感無量の面持ちでした。



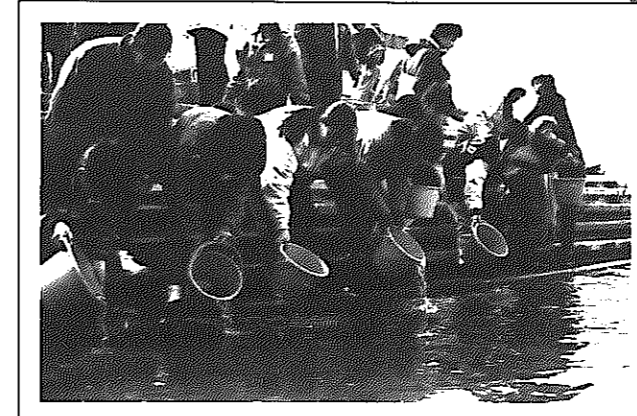
のこいた絵がありました
広報しろね イラスト展

第一回広報しろねイラスト展を三月二十四日から十六日間、ライオンドールで開催しました。このイラスト展は、広報しろね「いらすとやC.L.U.B」に二月までに送っていただいた全作品、約二百点を展示したものです。子どもたちをはじめ買い物に来た人たちが足を止めて見入る姿に、取材中の広報担当はうれしきっぱい。「友達のイラストだ!」「私の好きな絵があった」と子どもたち。「孫のかいた絵がありました」とおばあさん。「よし、次からはもっともっとビッグなイベントにするぞ」と心に誓う広報担当でした。



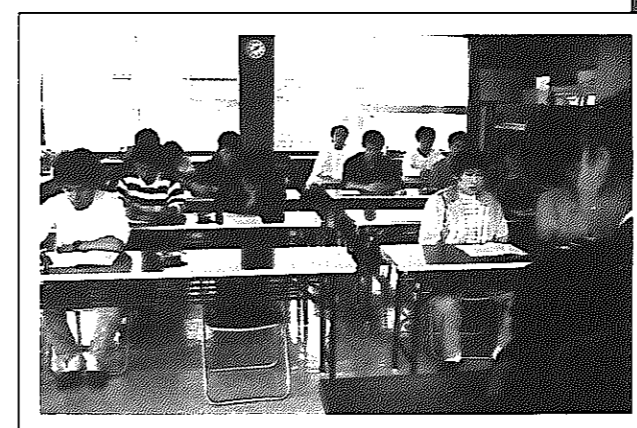
僕の顔、覚えてるんだぞ
大通小の児童が さけの稚魚を放流

信濃川漁協(氏田十三五組合長)では、三月十六日大通小学校の四年生から六年生の児童百八十人を招き、鷺ノ木水門付近の信濃川で、さけの稚魚放流を行いました。今回放流した稚魚三十万匹は、昨年十月ころ信濃川に上ってきたさけの卵をふ化したもので、体長は二三センチ。児童たちは氏田組合長から、さけは生まれた所に必ず帰ってくることを、帰ってくる確率は一%などの話を聞いた後いよいよ放流。稚魚を手ですくい取り「僕の顔を覚えて、必ず帰ってくるんだぞ」と言い聞かせて放流する児童の姿が印象的でした。



人気講座はコンピューター
農大講座 開講式

市農業大学講座の開講式が、四月十一日農業会館で行われました。農大講座は、市内の十八歳から三十歳までの農業後継者を対象に、技術や経営について学習しながら仲間づくりを進めようというものです。今回の受講生は、女性二人を含む二十八人。人気講座は、コンピューターコースで、十五人が受講。農業簿記や経営分析をパソコンを使って行うものです。この講座を三年連続して受講する泉孝一さんは「昨年ようやく、未完成ながらも経営分析まで行いました。今年は、ぜひ完全なものにしたい」と抱負を語ってくれました。



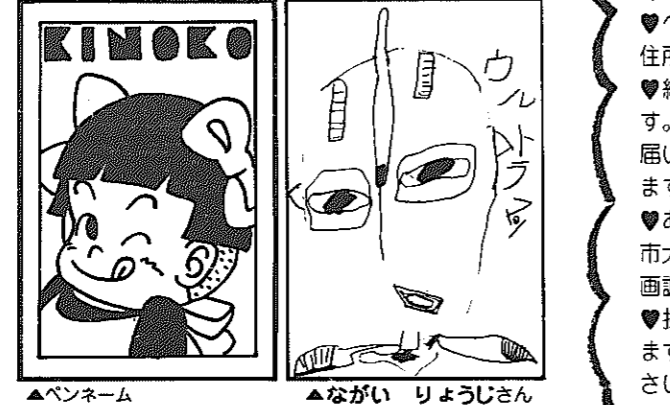
いらすとや CLUB

作品 待つてま〜す!

♥イラストは官製はがきに黒1色ではっきりと。鉛筆がききできるだけご遠慮ください。
♥ペンネームを希望する人も住所・氏名・年齢は忘れずに。
♥締め切りは毎月15日とします。締め切り日を過ぎてから届いたものは、翌月分へ回します。
♥あて先は 〒950-12 白根市大字白根 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 です。
♥採用分には粗品を差し上げます。どしどし応募してください。



えび之介さん、なんと春っばい。参ったぜ! りょうじ君、一生懸命かいてくれたね。ウルトラマンが大好きなのかな? えびぐらたんさん、思わず(笑)の元気のよさ。なんとなく雰囲気出てる。飛高さん、KINOKOさん。どっちも私の好みです。



▲ペンネーム KINOKOちゃん (中塚優・16歳)
▲ながい りょうじさん (古川・4歳)



▲ペンネーム 飛高 彌さん(水迫町4・14歳)



▲ペンネーム えびぐらたん山本さん(下塩俣・16歳)

グループ 紹介 31

山釣会 (山崎ヒュウム管轄)

番付を作って 腕を競います

四月八日、山崎ヒュウム管轄山釣会のおお下ろしが湯東村木山川で行われました。この日はあいにく朝から冷たい雨が降り、ときおり突風が吹くという最悪の天気。「寒くてジミが付けらんね。今日はびん釣り大会さ」という声も出るほど。しかし腕自慢の太公望たちは悪天候もなんのその、釣果を競いました。計量が始まると続々と獲物を持って会員が集まります。この日のトップは千四百七十グラムを釣り上げた長崎紘さん。「彼はがんびり屋だが「ね」と会友も賞賛していました。現山釣会は昭和二十九年の創立。現



釣った魚を計量する山釣会の皆さん

在会員は二十五人で、年六回の大会を行っています。会員は年間賞の社長杯、副社長杯を目指してがんばっているほか、過去六年間の総合記録をトータル。横綱、大関、関脇、小结、平幕と番付を作り、腕を競っています。会社は三つの工場に分かれているため、ふだん顔を合わせられない仲間たちと、会を通じて親睦を深めています。忙しい合間の気分転換には仕事のことを忘れて釣り糸を垂れるのが最高という皆さんです。

会員 登場



高井 登さん (七軒町・五十六歳)

不動の横綱という高井さん。「魚の習性をよく知っているから、ポイントを見つけるのがうまいんだね。釣りの神様ですよ」とは会員の高井さん評。休みの日はほとんど釣りに出かけるという高井さんは、釣りの楽しさを「なんといっても釣り上げたときの醍醐味」と言います。釣りが好きで好きで、という太公望です。